

小型カボチャ（ハウス）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
作型	○△— ◎ —× --- ×— <input type="text"/>												
主な作業	播鉢 種上 げ	定 植	交 配										収 穫

技術体系

1 作型の特徴

ハウス栽培で春の温暖な気候を利用して栽培を行い、梅雨前には収穫を終了する。

2 適応地域

全域

3 栽培条件

カボチャ（早熟）に準ずる。

4 施設装備

ビニルハウス

栽培技術

1 品種と特性

「坊ちゃん」

重さ500g前後の黒緑色皮に浅いストライプが入った扁平の小型カボチャ。ラップして電子レンジで加熱するだけでおいしく食べられる。

草勢は強く、長期間収穫可能である。大玉種より小葉で、節間はやや短くコンパクトな草姿となる。雌花は3～4節おきに安定して着生する。

2 育苗

カボチャ（早熟）に準ずる。

3 本圃準備

(1) 施肥

草勢が強いと、雌花の発生が少なくなり、果実が大玉傾向で商品価値が下がるので注意する。

施肥量 (kg/10a)

	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
基肥	10	15	10

*施肥量は、土壌診断結果により加減する。

*追肥は、着果後草勢を見ながら行い、N成分で2～5kgをつる先へ行う。

(2) 畦立て

定植10日前までにはマルチを被覆し、地温15℃以上を確保する。

4 本圃管理

(1) 定植

播種後30～35日で本葉4枚程度になった頃に定植する。

栽植様式

	畦幅 cm	株間 cm	株/10a
2本仕立て	380	60	430

(2) 温度

日中は30℃以上の高温にならないように換気を行う。最低気温が15℃以上になったら夜間も解放する。

(3) 整枝

摘心は苗床で定植5日前に本葉4枚時に行う。子

づる2本仕立てとする。

1番果の着果節位は10節前後からとし、草勢が弱い場合は節位を上げ、1株8～10果獲りを目標とする。

(4) 交配

交配はミツバチや人工交配を行い、確実に着果させる。

(5) 傷・色ムラ防止

敷きワラや台座マットを利用し、傷が付かないようにする。また、接地面が色抜けし、グランドマークが付くため、玉直しを行う。

(6) ネット栽培

トンネル支柱を利用したネット栽培を行うと、より高品質なカボチャが生産できる。

5 収穫

着果後40～45日で収穫可能となる。果梗部のコルク化、果梗周囲全体に入る縦の亀裂、そして果皮の色が淡い緑色から濃緑色に変わった頃が収穫適期である。